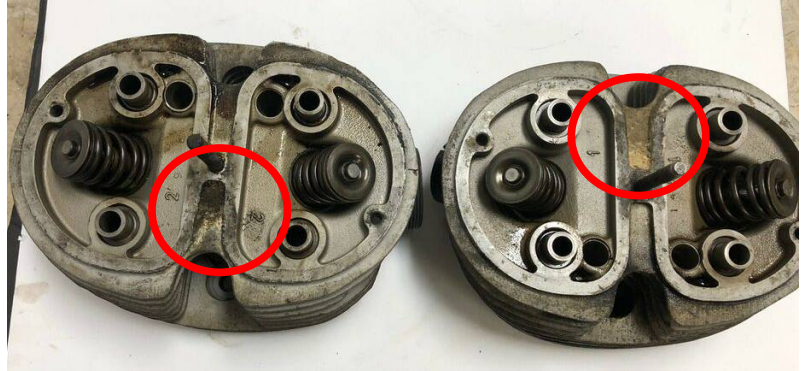


釜茹での刑 ヘッドカバーの改良例

天下の大どろぼう石川五右衛門は安土桃山の人で京都・三条河原で釜茹での刑になったそうです。バルブクリアランス調整などで洗車後にヘッドカバーを外すと水などが出てくることがあります。水圧が強くエンジン内部に水が入ったと思わせってしまうことがあります。また砂や小さな昆虫が出てくることもあります。原因はヘッドカバーが谷間になっていて逃げ場がないことのようにです。



谷間に汚れが溜まる /5シリーズ



こちらも/5のシリンダーヘッド 上部の汚れが激しい

BMWもまずいと思ったのでしょう部品番号も変えず人知れず対策品に変更されています。

時期はおおむね1985年のモノサスから辺りからだと思像します。



エンジン始動でポコポコ沸騰してドライになります 雨中走行が多いと泥、砂交じりの水が入るので小石が残ることも



上:旧型はガスケットで塞がれるので秘密のポケットになっている 下:改良品で隙間ができていますので水や小さな異物は落下する
旧型でもリューターや金ノコなどでちまちま溝を掘れば水溜まり問題は解消します。

ロードスターで復活したラウンドヘッド（丸型）は古い金型のままだったようで水は溜まるようです。残念！



角型は左右の別があるので間違えると少し「変顔」になります

パーツリストでは「シリンダーヘッドカバー」となっていますがアメリカでは「バルブカバー」のほうがポピュラーな呼び方ようです。ドイツ語でも VENTILDECKEL（ベンティール・デッケル）バルブのカバーです。

CRIMECA